

環境

物流事業における環境負荷は避けられません。その事実を深く厳しく受け止め、いかにして負荷を減らし、環境にやさしい持続可能な事業を実現できるか、NRSグループは考え続けます。

環境方針

当社は、化学製品を中心とした運送・保管業務及びその付帯する業務を展開する中で環境汚染の予防に配慮した物流を推進する。

環境に関する法令、条例、その他締結した協定、申し合わせ等を遵守する。

当社の事業活動が環境に与える影響を考え、地球温暖化、大気汚染等に重大な影響を与えるCO₂の排出削減等、次に掲げる項目に対して重点的に取り組む。

(営業所、グループ会社が行う環境に関する活動の支援、推進、管理等を含む)

1. 大気汚染防止、水質汚濁防止及び地球温暖化防止対策
2. 廃棄物の適正な管理とリサイクルの推進による廃棄物の削減
3. 省資源、省エネルギー、グリーン購入の推進

■ カーボンニュートラルの実現を目指して

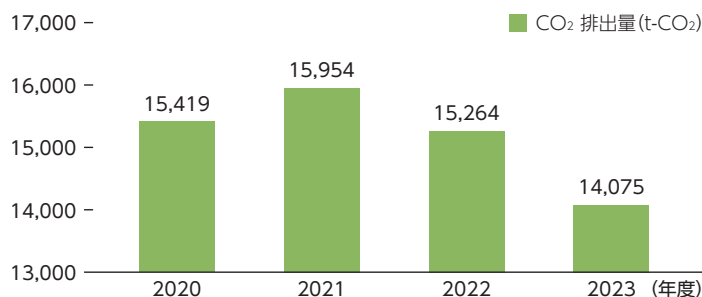
NRSでは政府方針を前倒し、2046年創立100周年の節目にカーボンニュートラル達成を目指しています。

当面の目標である2030年電力の脱炭素化完了に向け、本年度は国内5拠点で太陽光発電を開始、および電力契約の見直し（グリーン電力導入）を同6拠点で完了しました。

また、現状可視化推進策としてスコープ管理へ着手、計画的な脱炭素化を今後も継続します。

■ CO₂排出削減への取り組み

NRSグループでは、事業活動で発生するエネルギー使用量やCO₂排出量を把握しています。2023年度は、2022年度比▲4%改善の目標に対して7.6%削減することができました。今後もカーボンニュートラルを達成できるよう取り組んでまいります。



2023年度環境目標

：CO₂排出量2022年度比▲4%改善

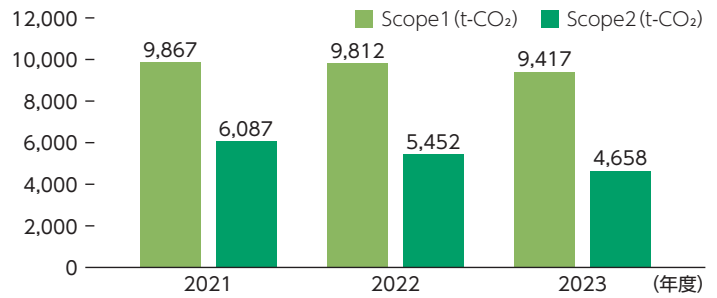
実績：▲7.6%



Scope別CO₂排出量

NRSでは2046年のカーボンニュートラルに向け、2019年よりScope 1、Scope 2の集計を行っております。直近3年間でCO₂排出量は確実に下がっており、これからもカーボンニュートラルに向け様々な施策を行ってまいります。

2023年度 Scope別CO₂排出量
 Scope 1 9,417 t-CO₂
 Scope 2 4,658 t-CO₂



省エネ・再エネ化推進の具体事例は下記の通りです

- 1) エコドライブの推進 : 国内トラック業10拠点+倉庫業2拠点、でグリーン経営認証取得
- 2) 照明LED化 : 国内倉庫全拠点に設置
- 3) グリーン電力導入 : 国内事業所6拠点まで完了
- 4) 太陽光発電設置 : 国内物流センター中心に5拠点に設置、発電中
- 5) モーダルシフト : 令和4年度「モーダルシフト優良事業者表彰」受賞



土気流通センターに設置した太陽光パネル

リターナブル容器による廃棄物の削減

ISOタンクコンテナ、IBC等のリターナブル容器は、洗浄して繰り返し利用可能な環境にやさしい運搬容器です。例えば、ドラム缶輸送からISOタンクコンテナ輸送に切り替えた場合、約80本分のドラム缶と、その輸送に関わるパレット等の副資材の廃棄物低減に寄与することができます。

●海上コンテナ内で2段積み可能なIBC容器の開発

当社は現在海上コンテナに2段積み可能なIBC容器を開発しております。これまでのIBC容器では海上コンテナ内では段積みができず、空間の有効活用ができませんでした。今回開発したIBC容器では高さを低くすることで、海上コンテナ内で段積みを可能にし、ラック倉庫にも保管が可能になりました。これにより輸送効率の最適化、副資材の廃棄物低減、倉庫内での保管効率の最適化が図れます。

●40ft ISOタンクの導入

当社は東南アジア向けに40ft ISOタンクを導入いたしました。これまでタンク貨車で輸送していた品物をこの40ft ISOタンクで輸送することで輸送回数を減らすことができ、輸送の効率化、CO₂の排出量を削減することが可能です。当社は今後も様々な種類のリターナブル容器を導入することで環境負荷低減、廃棄物の削減を行ってまいります。



●フロンの回収・リサイクルへ

川崎ConTechでフロン残ガスの回収処理を開始。回収品はリサイクルするスキームで、従来の燃料廃棄処理等に比べ省エネ省資源を実現、環境負荷軽減へ貢献する取り組みです。

環境汚染の防止

大気・水質の維持・改善を確実に実行しています。環境値管理の徹底で環境トラブル発生ゼロを継続しています。また、環境ISO認証の取得範囲を広げています。本年度は神戸および周南両ConTechで新たに認定取得しました。さらに物流センターでも認定取得へ対応中です。

